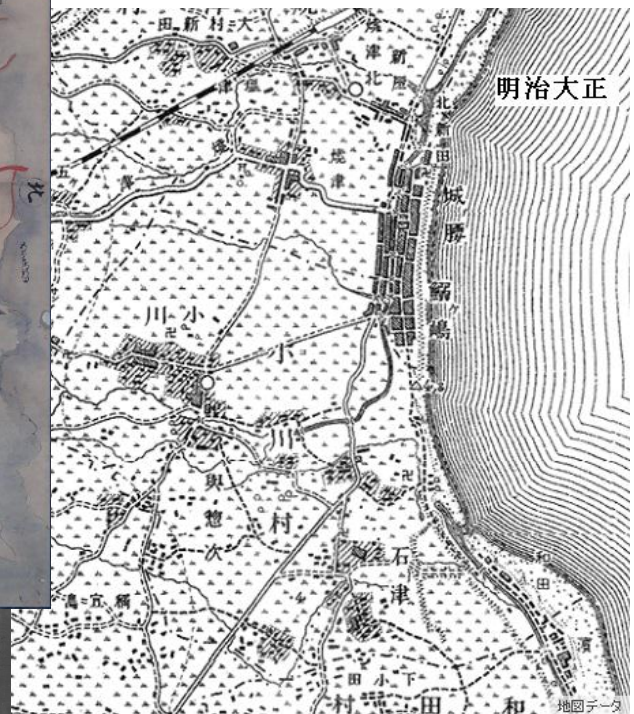


・ ・ 絵図・地図・航空写真で見る ・ ・

# 石津の変遷



認可地縁団体  
石津共栄会

過去を振り返るには、文書だけでは内容を深く理解できない事が有ります。文書に図が付随していると、深く・早く理解出来ると思ひ、この小冊子をまとめてみました。

右の年表は石津共栄会誌からです。この冊子が年表の理解の一助に成ればと思ひます。

この小冊子をまとめるに当たり

- ・石津共栄会誌
- ・石津の民俗
- ・木屋川のほとり
- ・小川村誌
- ・他

を参考にしています。

#### 『石津共栄会誌』年表（1968年）より

1504（永正元）	石津八幡宮創建
1661（寛文元）	木屋川田尻境より石津に回流
1708（宝永5）	石津庄屋平次兵衛宅消失
1844（天保15）	堤及び扒樋普請。天保年間に汐除堤防築造と植林
1849（嘉永2）	木屋川河口幅十間の掘明
1854（安政元）	大地震、大津波、見取場一帯隆起
1857（安政4）	新開波除土手構築、よし組と称し開墾着手。未墾地は石津村有となる
1861（文久元）	水天宮の前身石祠建立
1880（明治13）	外新開開墾を八木氏率先着手、幸八新開という
1883（明治16）	石津の総戸数一七二戸。石津よし組四組編成し石津共有と称する
1884（明治17）	見取場下流に排水路と逆水門二か所を造る 石津漁業組合発祥。地元船に本田舟、惣五郎舟、斧右衛門、勘右衛門、又兵衛舟、元吉舟、新舟、惣右衛門、善左衛門、忠兵衛舟
1885（明治18）	池谷街道（静浜街道）開設 (現 国道150号線に近い)
1889（明治22）	小川村に合併
1904（明治37）	よし組に村税戸数割の百分の十二を補給
1909（明治42）	吉永街道（焼津榛原線）開通
1911（明治44）	石津漁業組合所属地元船は、新舟、松兵衛、下舟、元吉舟、又兵衛舟、九平、和田屋。石津戸数は二一三戸
1917（大正6）	外新開を養魚場として八木氏に貸与
1920（大正9）	石津共同精米組合開業
1920（昭和8）	水天宮北側の養魚場を埋め立て、新宅地造成。舟溜まり開設
1937（昭和12）	小川・石津両漁業組合合併、小川村漁業組合となる
1947（昭和22）	石津共有を発展解消、石津共栄会を設立
1951（昭和26）	小川漁港開設工事着工。見取場を埋め立て、区画整備をして宅地造成岡公会堂落成
1955（昭和30）	焼津市に合併
1960（昭和35）	浜公会堂落成
1968（昭和43）	石津共栄会を財団法人とする

## 石津地区の昔の絵図（1）

石津共栄会所蔵の絵図、いつ描かれたかは不明です。

掛軸表装でしたが虫食い等があった為、H29年4月に額に表装し直し。

現在は石津浜公会堂の和室に保管して有ります。

**除地** 年貢諸役を免除された土地。社寺の境内や・・・

**損地** 山崩、出水などの天災にかかり、田畑屋敷が荒亡すること。

**永荒** 災害のため永い間荒廃した田畑、芝地・沼地など。



## 石津地区の昔の絵図（1）の補助資料

絵図に書かれている文字に何と書かれているのかを書き添えてみました。読みが間違っているかもしれません。まだ読めていない、意味不明の箇所があります。

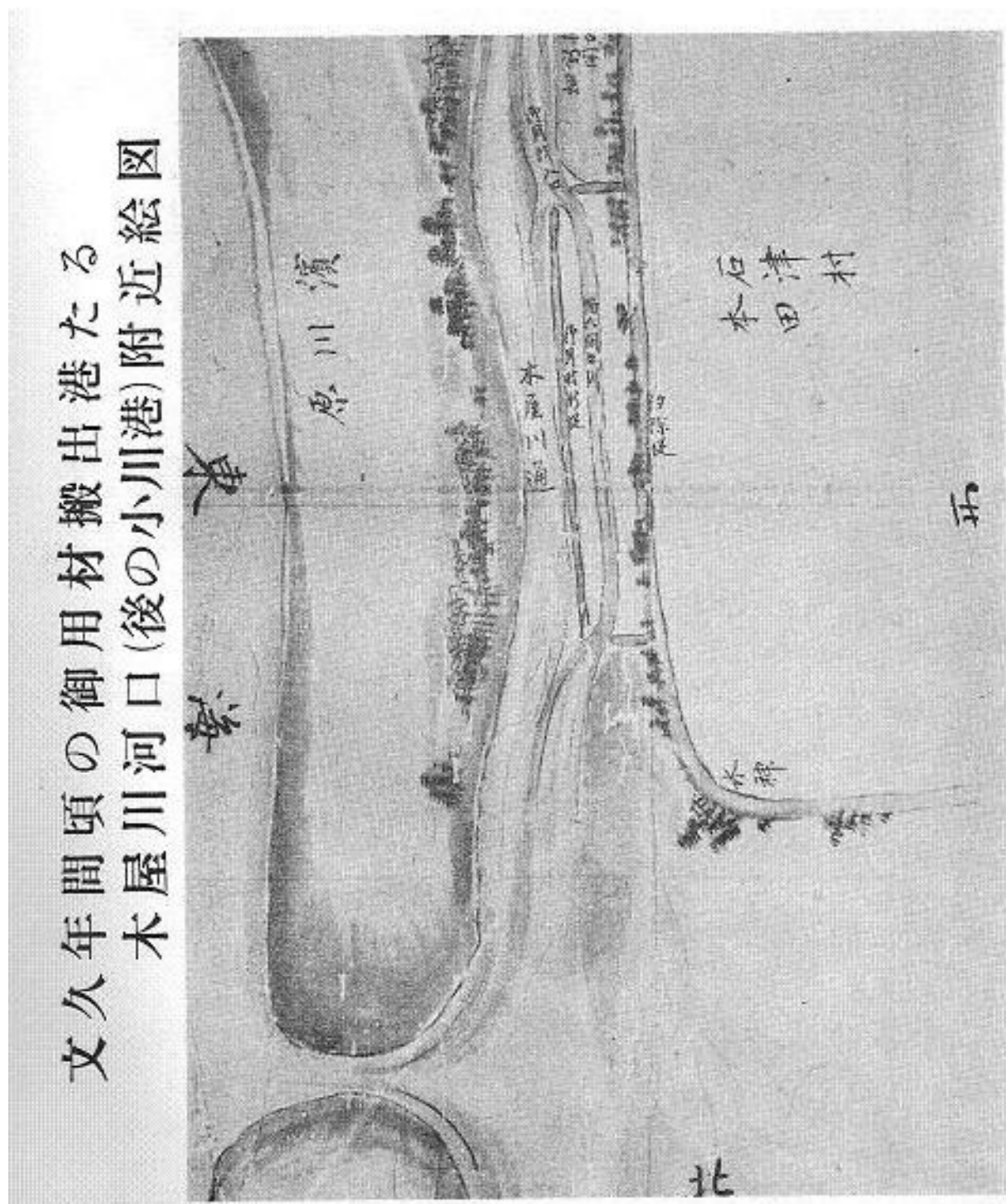
文字の意味が時代を教えるような気がします。



## 石津地区の昔の絵図（2）

財団法人設立記念に発行された石津共栄会誌（昭和43年10月発行）に下の絵図が載っていますが、石津浜公会堂の和室にある絵図と似ているようですが別物の様です。

御用材の搬入口、貯蔵場所が描かれています。



## 石津地区の昔の絵図（3）

木屋川の河口から田尻北村の絵図  
明治22年測量の地図と似かよっている  
感じがします。

石津共栄会所蔵の絵図（昭和26年製作）  
この絵図の基図が存在した様です。

”明治100年記念、財団法人設立記念”  
石津共栄会誌に記載されている絵図が基  
図と思われます。

新堀川

長百四拾間

横平均五間

田尻北石津村境

畑 新開 損地

汐除堤

御用材入口

御用材新堤

幅六間の川

石津村 本田

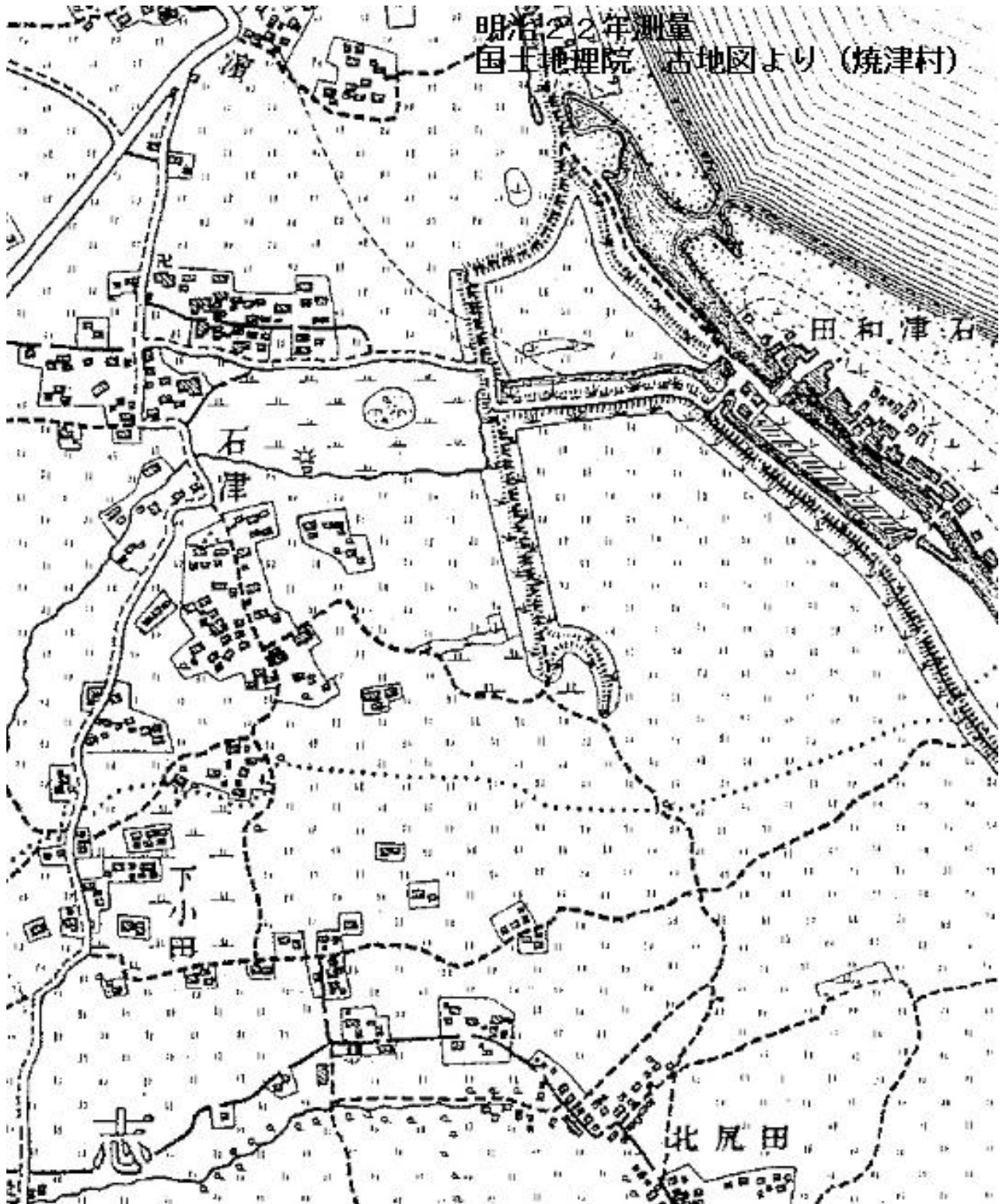
水神





# 明治22年測量 焼津村（2）

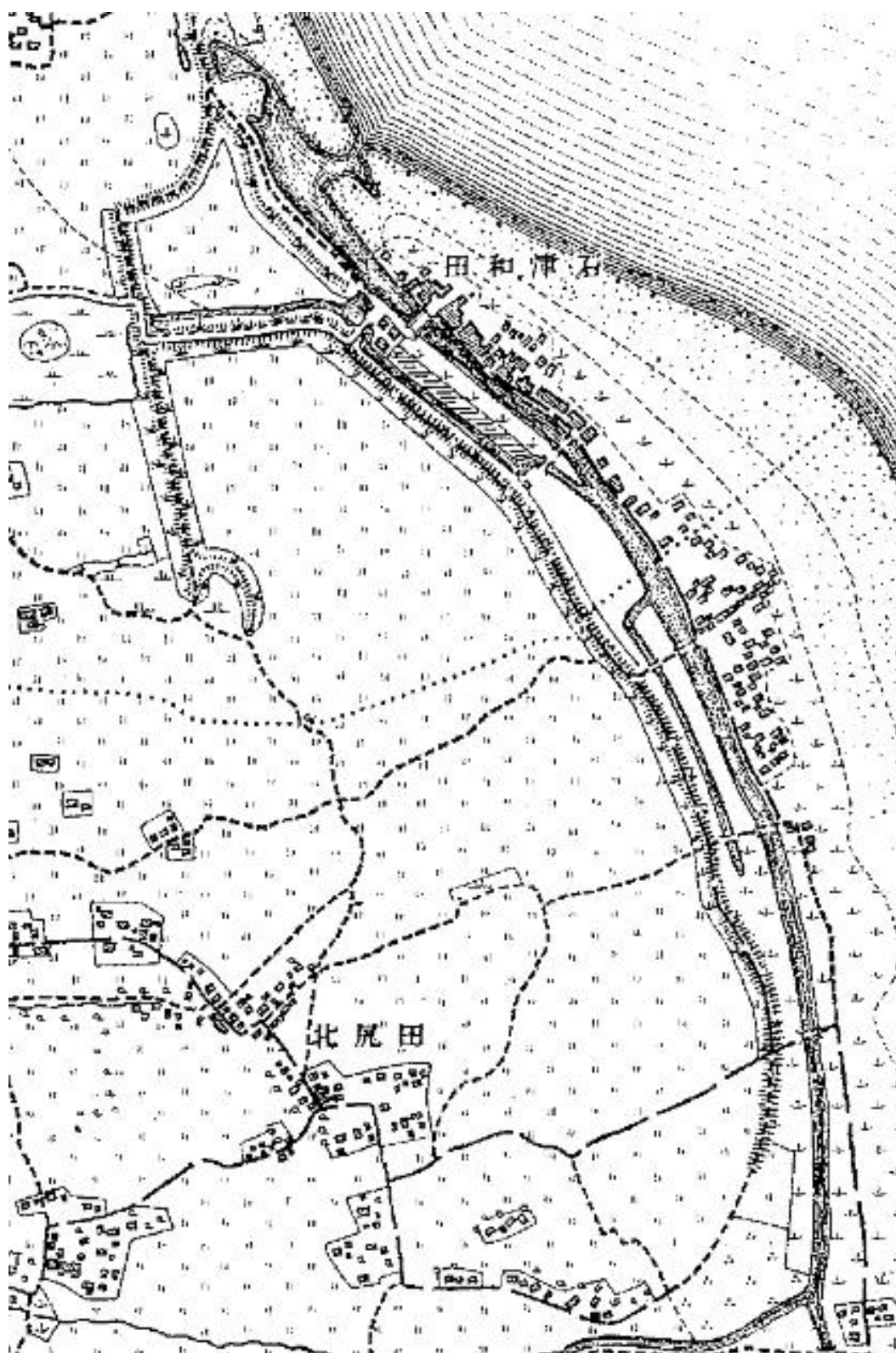
国土地理院 古地図の石津及び、港・木屋川部分の拡大図です。





# 明治22年測量 焼津村（3）

国土地理院 古地図の港・木屋川部分の拡大図です。



## 石津地区の明治？年の地図

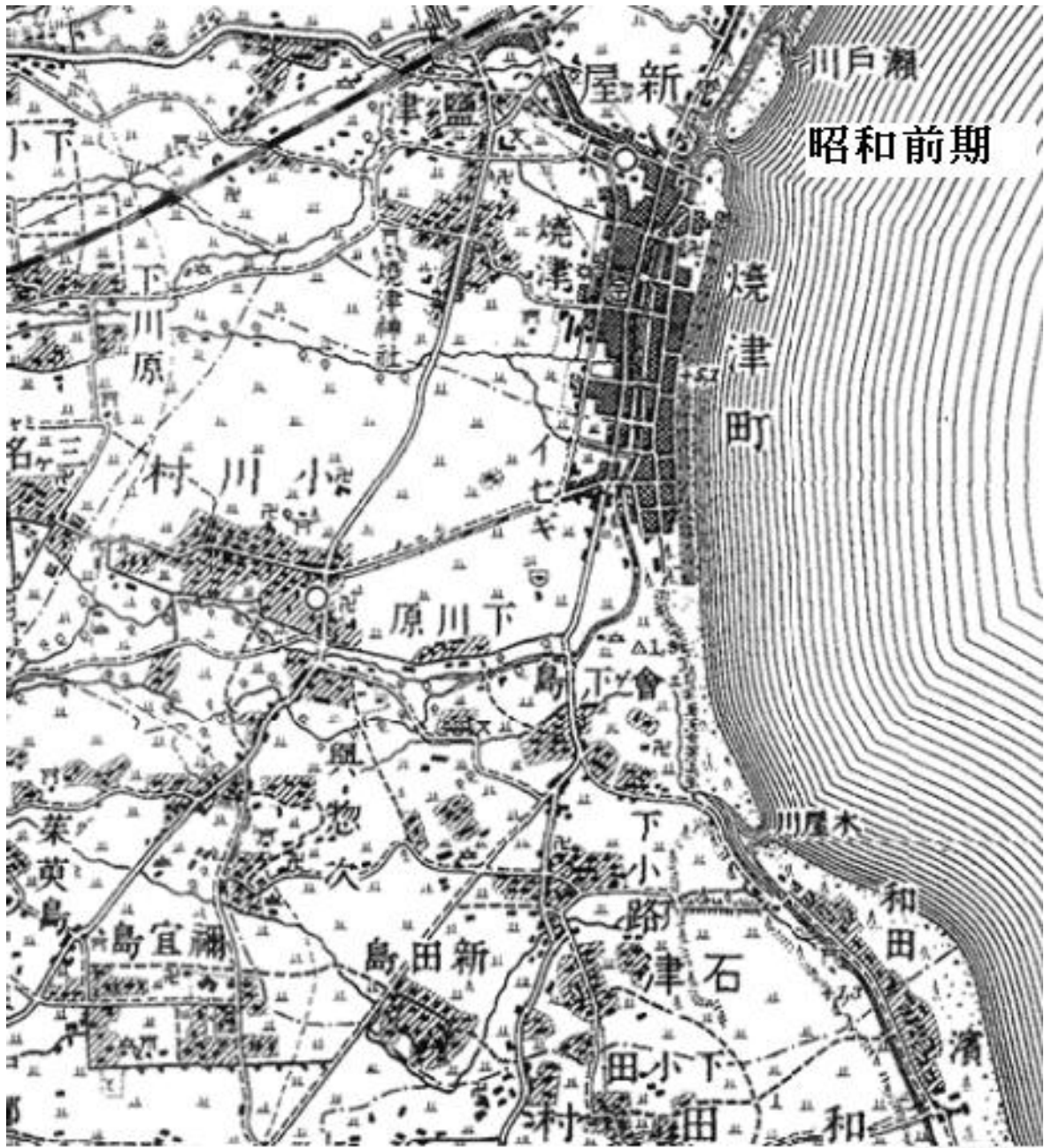
Google 地図サービスの地図より 1 / 50, 000 を拡大。

<http://user.numazu-ct.ac.jp/~tsato/webmap/map/gmap.html?data=history>



# 石津地区の昭和前期の地図

Google 地図サービスの地図より 1 / 50,000 を拡大。



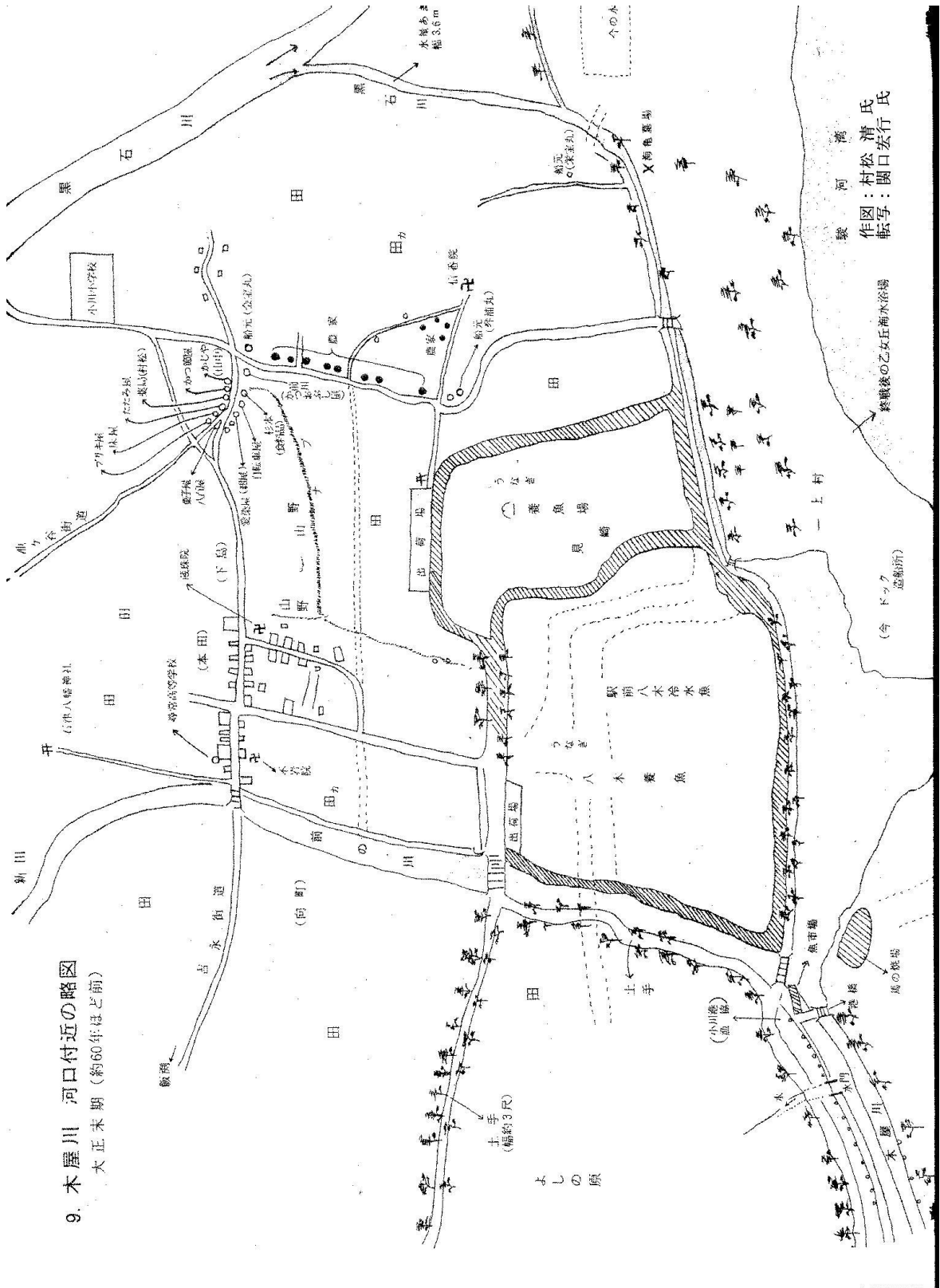
地図データ

# 大正末期の絵図

「木屋川のほとり」より

昭和60年3月（創立15周年記念）

港小学校ふるさと委員会



9. 木屋川 河口付近の略図  
大正末期（約60年ほど前）

作図：村松清氏  
転写：関口宏行氏

終戦後の乙女丘海水浴場

(今 ドック 造船所)

# 静岡県志太郡小川村全図

焼津市立図書館 小川村全容図より

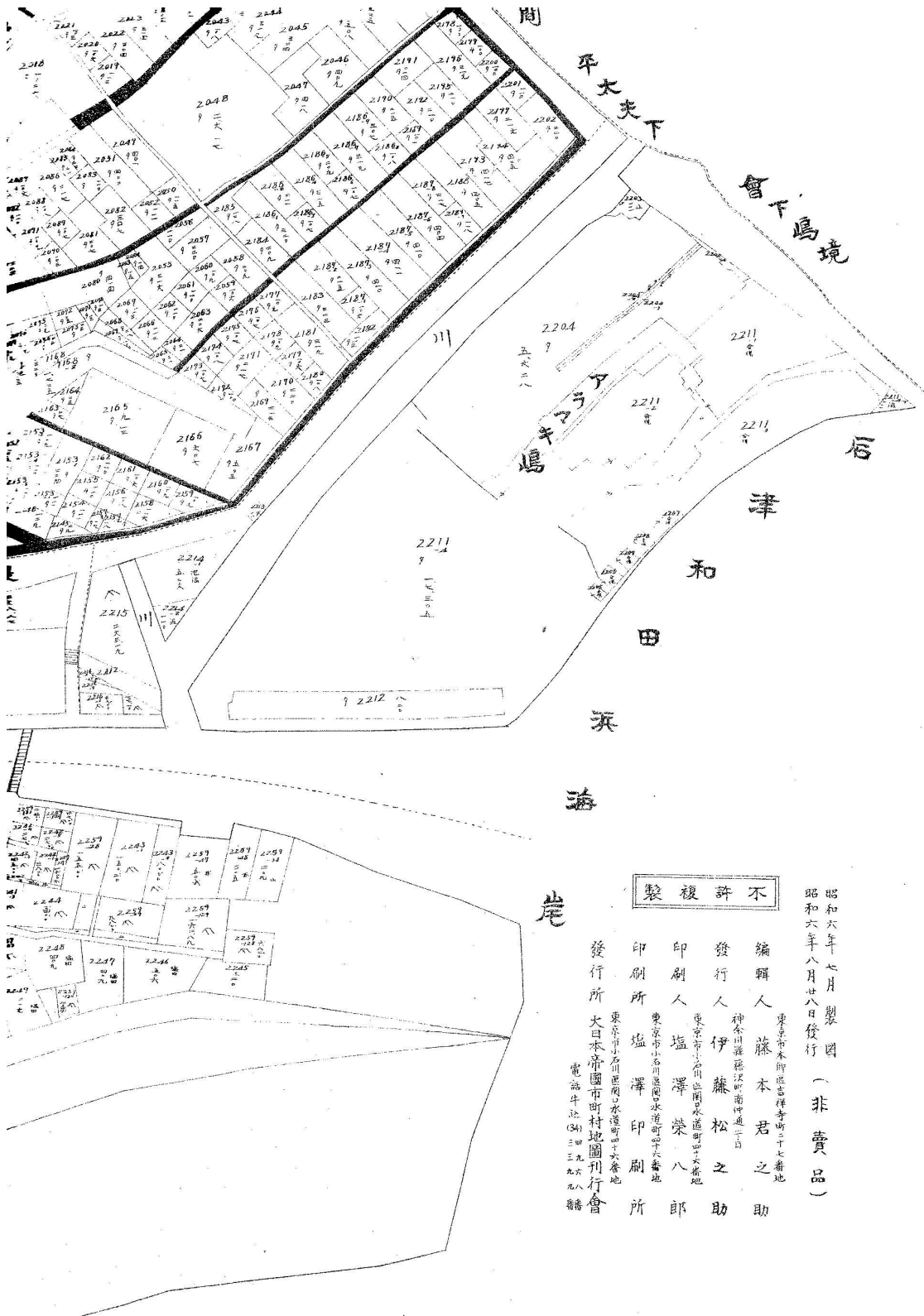
見取場：年々の作柄を見て年貢率を決める検見取法(けみとりほう)のことを示します

アラマキ嶋、荊嶋、パラジマ等の名称の由来は何処から？



# 小川村全容図大字石津 昭和6年-1 港付近

小川村全容図の全体図は焼津市立図書館でご覧下さい。



製複許不

昭和六年七月製圖  
昭和六年八月廿八日發行  
(非賣品)

編輯人 藤本君之助  
 發行人 伊藤松之助  
 印刷所 塩澤榮八郎  
 發行所 大日本帝國市町村地圖刊行會  
 東京市本所區吉祥寺町二十七番地  
 神奈川県藤沢市南河邊三丁目  
 東京市小石川區日守町四丁目六番地  
 東京市小石川區日守町四丁目六番地  
 東京市小石川區日守町四丁目六番地  
 電話牛込(34)三三九八番

# 小川村全容図大字石津 昭和6年-2 (現4・5・6・7町内会)

焼津市立図書館 小川村全容図より



# 1946年の航空写真

戦後、米軍が撮影  
地理院古地図データサービスより

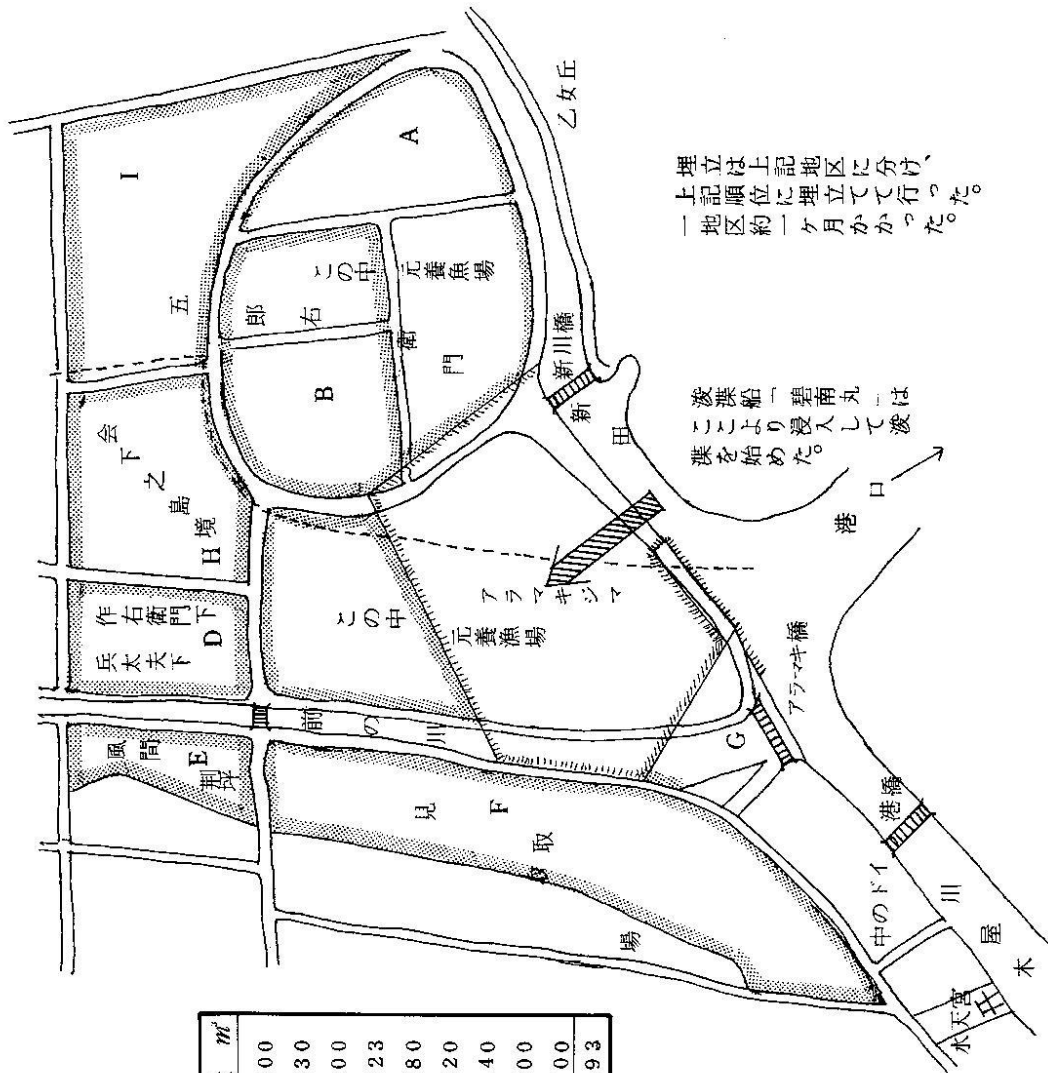




# 昭和 26 年小川港修築工事

石津共栄会誌より

## 小川漁港浚渫埋立計画図



埋立は上記地区に分け、  
上記順位に埋立てて行った。  
一地区約一ヶ月かかった。

浚渫船「碧南丸」は  
ここより浸入して浚渫  
を始めた。

浚渫による放出土量  
約 140000 m<sup>3</sup>以上

区域	高さ m	面積 m <sup>2</sup>	土量 m <sup>3</sup>
A	1.30	9588	12500
B	1.31	9640	12630
C	1.70	10500	22000
D	0.81	8400	6823
E	1.00	10980	10980
F	1.33	33230	44220
G	1.90	2178	4140
H	0.72	11779	8500
I	0.60	24535	14700
合計	1.11	120830	136493

埋立面積土量調査表

旧地形は五郎右衛門新田及びアラムキジマの堤内は何れも養魚場と  
なっていて居り、前の川はこの南を海に  
流れて居た。

その他地区は全部田で競津へ行く  
にはアラムキ橋を渡り新川橋を渡り  
乙女丘海岸を通して、いわしが島に  
入って行った。

1963 年

Google 地図サービス 地図・航空写真

<http://user.numazu-ct.ac.jp/~tsato/webmap/map/gmap.html?data=history>



# 1975年の航空写真

Google 地図サービス 地図・航空写真



# 1980年の航空写真

Google 地図サービス 地図・航空写真



## 2009年の航空写真

地理院古地図データサービスより  
港小学校の周りにも家が密集しています。



## 絵図・地図・航空写真で見る 石津の変遷

### 引用資料

1. 共栄会所蔵の絵図 2点
2. 焼津市立図書館 小川村全容図
3. 地理院購入古地図 明治22年測量
4. Google 地図サービス 地図・航空写真  
<http://user.numazu-ct.ac.jp/~tsato/webmap/map/gmap.html?data=history>
5. 地理院、古地図サービス 航空写真
6. 木屋川のほとり（港小学校ふるさと委員会（S60年3月） 絵図

平成30年1月  
認可地縁団体 石津共栄会  
会長 嶋芳正